# 京都外国語大学　入学式　学長式辞（邦文）
## 平成２５年４月１日　森田記念講堂

新入生ならびに保護者の皆様、森田嘉一理事長・総長、ご来賓の各位、そして本日お集りくださいました皆様方、京都外国語大学の教職員を代表しまして、歓迎とお祝いの言葉を述べさせていただきます。そして、数ある大学の中から京都外国語大学を選んでくださいましたことに対して、深く感謝申し上げます。

本学が京都外国語学校として創立されましたのは、多数の死者と荒廃をもたらした第二次世界大戦後間もない 1947 年 5 月であります。未来が不確かで混乱した中、本学は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」を建学の精神として掲げ、歩みだしました。

本学の建学の精神は、戦争は二度と起こしてはいけないという創立者の強い決意と心からの願いを表しています。世界の人々を、兄弟愛で一つに結びつける手立てを不断に追求していけば、コミュニケーションを通して国際的な理解が得られることでしょう。

創立者は、「本学は、単に外国語を教えるだけでなく、世界の人々の精神や価値観に至るまでを教えられる大学を目指したい」と熱を込めて語られました。

本学は、高度な外国語運用能力と人類の多様性を尊重する精神、世界平和に貢献するという強い意志を持った国際的な人材を育成することに全力を注いできました。喜ばしいことに、本学園は昨年創立６５周年を迎えました。グローバルな舞台で卒業生がさらに活躍できますようにとの、森田理事長・総長の熱い期待と信念のもと、本学の学問・教育の分野は年々充実し、発展し続けております。

学生の皆様には、本学で高度な外国語運用能力と幅広い教養を身につけ、自らが希望する仕事に就かれるとともに、国際社会において積極的に貢献しうる人材に成長されることが期待されております。このことを念頭に置き、私たちは今、キャンパスの環境改善プロジェクトを推進しております。授業で身につけた高度な語学運用力を、日常のキャンパス生活を通して実践できる環境をつくりたいと思っています。

普段の授業に加え、ナショナル・ウィーク、特別講義やクラブ・サークル活動など、このキャンパスの中で外国の雰囲気を体験できる様々な機会を積極的に利用してほしいと思います。

本学の建学の精神を実践し、またキャンパスの国際化を進めるには、私たちは様々な課題に果敢に挑戦していかなければならないと考えております。

私は、平等であることの重要性、特に、男女平等の重要性に注目し、まず手始

めにジェンダー・スタディーズの発展に力を入れたいと思っています。
例えば、昨年度の京都外国語大学の学生は、実に64%が女子学生でした。しかし、残念ながら、このキャンパスで提供されているおよそ1500の授業科目のうち、ジェンダーや女性に関する授業は、授業科目全体のわずか３%強でした。
私は、本学のカリキュラムに見られるこの不均衡を改善して行きたいと考えております。と申しますのは、潜在的可能性を秘めつつも、まだきちんと認識されていない女性のパワーというものが、本学の活性化の鍵となると信じているからです。

UNウィメンの事務局長ミチェル・バチェレは、“男女平等は現実のものとならなければならない”と言いました。ご存じのとおり、国連ミレニアム開発目標（MDGs）の８つの目標の一つとして、男女平等が掲げられています。世界的視野で見ますと、男女平等の実現は、貧困と紛争の撲滅の鍵であり、平和構築の鍵でもあるからです。

新入生の皆様の多くは、特に発展途上国の子どもたちを助けたいという思いから、児童労働、少年兵、児童婚など、子どもに関連した諸問題に興味を抱いておられることでしょう。女性研究は、当然のことながら子どもの研究につながっております。

また、目を日本国内に向けましても、男女平等の実現は、まさに日本の社会全体を再生するために必要不可欠な要件です。とりわけ、本学の学生の皆様には、ジェンダー・スタディーズを通して、男女が協働することで、より豊かで幸せな人生を歩んでほしいと願っています。

最後に、あらゆる学習の原点は好奇心にあるということを忘れないでください。その好奇心が一つのテーマに絞られてゆき、さらにはそのテーマについてもっと深く知りたいと努力していく過程で、私たちの心は次第に豊かになっていきます。このようにして、私たちの世界市民としての人生はより意味のあるものになっていきます。
学生の皆様には、外国語を使って世界に大きく貢献するという意欲を持ってもらいたいという思いから、学長として、本日は英語でのスピーチとさせていただきました。本学でのこれからの４年間が皆様にとって実り多いものとなりますよう心よりお祈りいたします。
ご清聴ありがとうございました。

学長　松　田　　武